

# 活動名 Compact City きりゅう（群馬県桐生市）

## 分野 市民活動中心のICTを活用した地域活性化

### サービス・事業概要

群馬県桐生市における、市民を中心とした各種活動である。

2009年現在、NPO：KAINを中心にしてFM桐生、桐生商工会議所、群馬大学工学部、桐生青年会議所（桐生市役所）、一店一作家運動プロジェクト、市民活動支援センタ、本一本二まちづくりの会、NPO法人桐生再生等の会が集まり、コンセプト「Compact City きりゅう」として「群大FilmArchive事業」「新明日への遺産 編纂プロジェクト」等、様々な地域活動をコミュニケーションツール（SNS、Blog、コミュニティFM、CATV等）を通じて活性化を達成している。

全国的に見ても、市民中心で、1つのコンセプトを元に産官学と団体が集まり、活動を広げている成功例として位置付けられる。

### サービス・事業の背景

桐生市は、古くから「西の西陣、東の桐生」とうたわれ、織物の一大産地であったが、現在では化学繊維、輸入織物に押され、街も衰退をたどり地方都市でよく見かける「シャッター商店街」様相を呈してきた。

こうした事態に対し、桐生市民を中心とした「朝飯会（渡良瀬Club21）」を1984年に設立。コンセプト「Compact City きりゅう」を作成し、このコンセプトを基に様々な市民活動を実施した。

このコンセプトを元にFM桐生、桐生商工会議所、群馬大学工学部、桐生青年会議所（桐生市役所）、一店一作家運動プロジェクト、市民活動支援センタ、本一本二まちづくりの会、NPO法人桐生再生等の団体が集まり、現在、各種地域活動を実施している。

### サービス・事業の成果

- ▶コアメンバ（50名）
- ▶イベントにおける参加者：約1,000名
- ▶参加団体数の増加：30団体⇒70団体
- ▶ニュースレター：3,000部／年発行

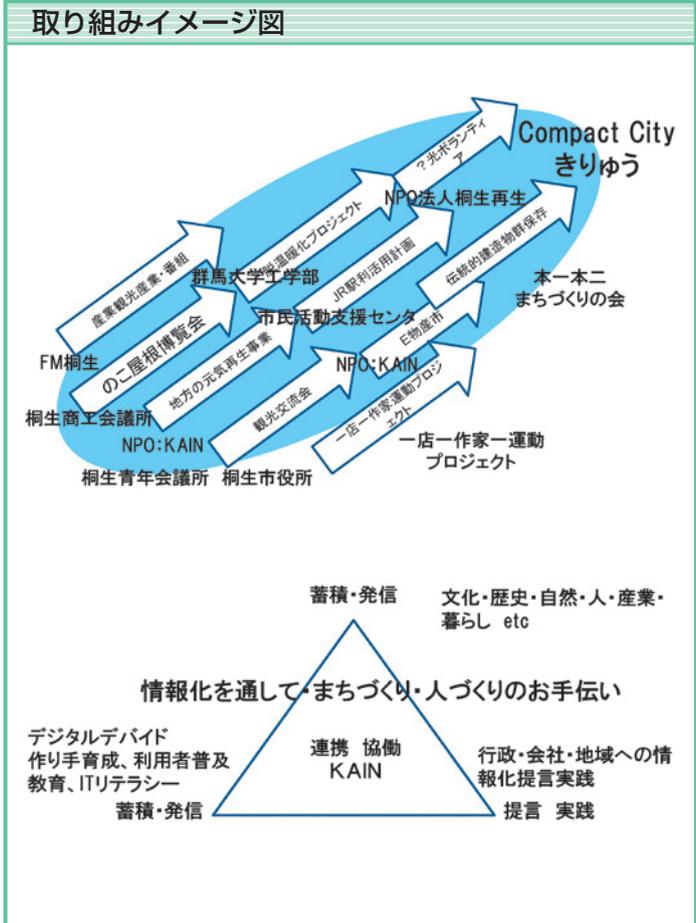
現在も地域活性化に貢献し、発展を続けている。

### 実施運営体制

▶以下の組織が自立分散的に協調して活動している。

- ・NPO法人 KAIN
- ・FM桐生
- ・桐生商工会議所
- ・桐生青年会議所 桐生市役所
- ・群馬大学工学部
- ・市民活動支援センタ
- ・一店一作家一運用プロジェクト
- ・本一本二まちづくりの会
- ・NPO法人桐生再生

等



## 成功要因の整理 (1/2)

### 行政の特色／役割

- ▶ 「桐生をなんとかしなければならない」という危機感があった。
  - ✓ シャッター商店街等、市内の産業、商店の衰退 など。
  - ✓ 高齢化、人口の減少 など。
- ▶ 活動を「市民中心」と位置付け。
  - ✓ 当初、桐生市民中心で構成される「朝飯会」（渡良瀬Club21）を中心にどうすべきかを議論した。
  - ✓ 中心コンセプトとして「Compact City きりゅう」を作成した。
- ▶ 桐生市役所はメンバの一員として位置づけた。
  - ✓ 桐生市役所は、Compact City きりゅうを進めていく上でのメンバの一員という位置づけにした。
  - ✓ 様々な活動は、基本的に民が主体となった。



地元、桐生に対する危機感と何とかしようとする熱意が重要である。  
ただし、熱意だけではなく、柱となる中心コンセプト（Compact City きりゅう）を決め、活動を続けることが更に重要である。

### 現状調査・サービス企画プロセス

- ▶ 桐生市民数人を中心とした「朝飯会」（渡良瀬Club21）で議論を交わす。
  - ✓ 「私利私欲をもたない」ということが大事である。
- ▶ スキルとしては「熱い思い」を持つ人の他に「よそ者」（桐生を「外から見る人」）も重要な位置づけとなった。
  - ✓ 桐生出身者でも長期間離れて生活していると「よそ者」と同じになるが、郷土愛がある。
- ▶ 中心コンセプト（Compact City きりゅう）がぶれないようにすることが大事である。
  - ✓ 活動の中で、絶対ではなく緩やかな連携が必要だが、方向性は統一することが必要である。



企画の際には、熱意の他に「よそ者」（外から見る人）も重要である。  
また、何をするか、中心となるコンセプトを決め、ぶれないようにすることも重要である。

### 計画プロセス

- ▶ 広い人脈（と人が集まってくる人格も）が重要である。
  - ✓ 実行における活動者のネットワークと集客（参加者）の魅力も必要である。
- ▶ 来る者はこばまず、去る者は追わずという「しばらない、ゆるい関係」が重要である。
  - ✓ 強制的にやらせる（縛る）でなく、楽しく実行しできる関係構築で、緩やかな人脈形成が必要である。



広い人脈（と人が集まってくるような人格）が重要である。  
また、関係者同士をしばらない、ゆるい関係も重要である。

## 成功要因の整理 (2/2)

### 開発プロセス

- ▶ (朝飯会を進めていくうち) 次第に様々なグループ(群馬大学、一店一作家一運動プロジェクト等)が集まり、大きなグループになっていった。
- ▶ (広い人脈のためか) スキルという点から見ると足りなくて困ったということがなく、必要な時に必要なスキルは人脈をたどることで見つかった。
  - ✓ S氏は、情報化等で関与した。
  - ✓ 契約関係は、弁護士、行政書士の方がメンバに参加していたため、相談に乗ってもらった。
  - ✓ 補助金関係では、学識経験者の支援を受けて助成金申請を行い助成を得ることができた。
  - ✓ 活動場所(借りている)等の支援は、地元企業(桐生ガス等)が提供した。



事業(活動)を進めていく上で、(広い)人脈を活用していくことが重要である。

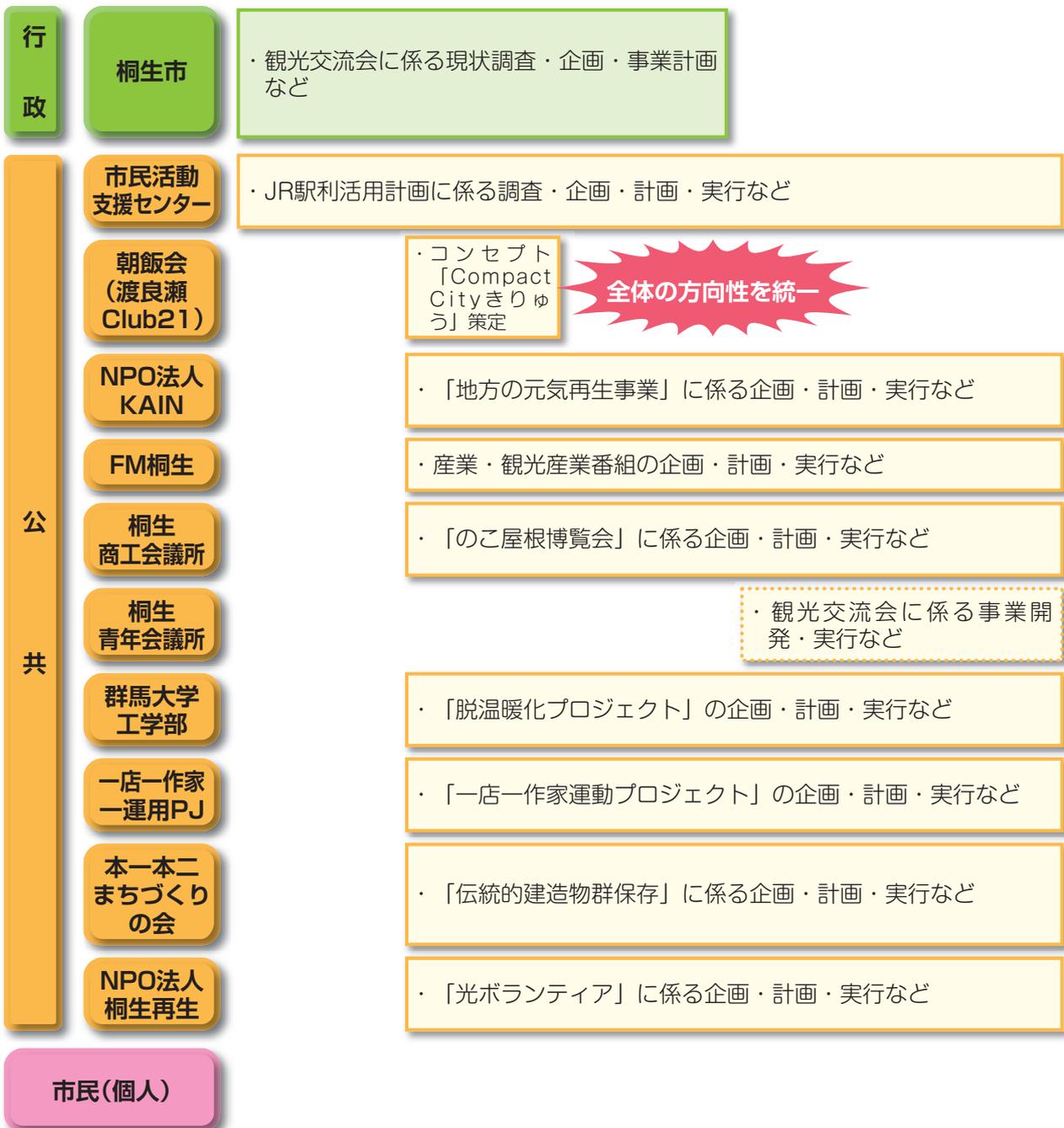
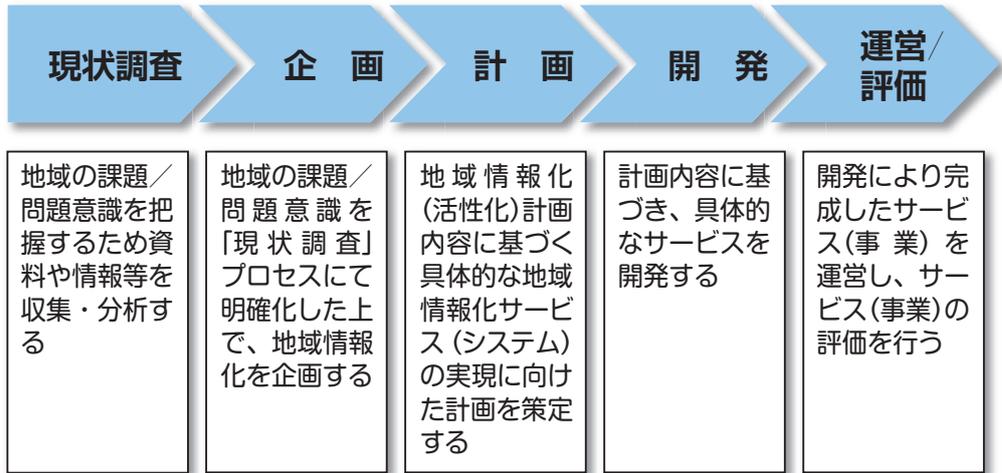
### 運営・評価プロセス

- ▶ **まず「何をするか」が大事である。もしくは、コンセプトがぶれないようにすることが大事である。**
  - ✓ 何をするかわからない。もしくは、コンセプトがぶれるでは、うまくいかない。
  - ✓ 楽しいことに人が集まり、人が集まれば、知恵が生まれ面白いことができる。
  - ✓ 必要以上の経費をかけて過大にするより、コンパクトに始めて知恵を活用するほうがよい。
- ▶ **「失敗は、成功の素。」のごとく、失敗を恐れずトライし、失敗ないように周りがサポートする。**
  - ✓ 個々での実施でなく、チームでの動きが重要で、何の為に何をするのかを徹底する。
  - ✓ 失敗も見解を変えれば、問題ない場合もあり、継続性を持って次回に備える。



活動を続けていくためには、何をするか、もしくはコンセプトをぶれないようにすることが重要である。

楽しくないと継続できず、継続するためには補完と許しが必要である。



全体の方向性を統一

